

# 活動報告書

報告者氏名：小林 真樹 所属：信州大学教育学部附属特別支援学校 記録日：平成 26 年 2 月 21 日

## 【対象生の情報】

- ・学年 特別支援学校 中学部 3 年
- ・障害名 自閉症
- ・障害と困難の内容

日常の会話はおよそ聞いて理解していると思われる。発語は「(ごちそうさまでした)」「(ありがとうございました)」などの言葉を口形をまねながら大人と一緒に言う。意思伝達は、お代わりを簡単な動作によるサインで伝える。欲しいものややりたいことのある場面では、教師の顔を見たり、直接行動したりして、欲しいものややりたいことを伝えようとするが、教師が対象生のやりたいことを推察できないことも多い。ものの弁別はできるが、選択は難しい。2つの物を提示すると、教師が演示しても、二つ同時に指を差したり二つの物の中間で指を差したりするため、対象生の選んだものを推察できないことが多い。

## 【活動目的】

- ・当初のねらい

朝の会や帰りの会での発表場面で、2つの写真から1つを選んでタッチすると、音声再生されるようにしておき、2つの写真から自分が頑張ることや楽しかったことを選んで発表することに取り組んだ。この活動を通して、2つのものから1つものを選び、相手に伝える経験を積み重ねることを目的とした。



使用したハードウェア：iPadと iPad Camera Connection Kit

(iPad Camera Connection Kit を用いて、デジタルカメラの写真データを iPad に取り込んだ)



使用したアプリ：写真

と DropTalk HD



帰りの会の前に、教師が対象生の当日の活動の様子写真から2つを選び、iPad Camera Connection Kit を用いてデジタルカメラのSDカードから写真アプリに取り込んだ。取り込んだ写真を用いて、DropTalk HD のライブラリにシンボルを追加した。横2×1のキャンパスに追加したシンボルを用いて、2つの写真から1つの写真を選び、タッチすると教師の録音した音声再生されるようにした。朝の会では、前日の写真やこれまでの活動の写真を用いてシンボルを作成した。

- ・実施期間

平成25年5月～平成26年2月（9ヶ月）

- ・実施者

小林 真樹

- ・実施者と対象児の関係

学級担任



使用した DropTalk の画面例

## ○iPad を使用した理由

本人はまだ自分が選んだことによって、周囲に影響を及ぼすことができるという実感が少ないのではないかと教師は感じていた。そこで、自分が選んだことが周りに伝わっていること、そのことで周囲が反応していることが分かることを願い、以下の点考えた。

- ① これまでも自分の活動している写真に注目する姿が見られていた。そこで、その日の本人の活動している様子の写真を使ったカードにすることで、選ぶのではないかと考えた。紙の写真を印刷して、VOCA と組み合わせることで実現可能かもしれないが、iPad の DropTalk であれば、短時間に作ることができるので、毎日繰り返して取り組みやすいと考えた。

②クリックすることで声が再生されることで、紙のカードを触ったときに隣の教師が声を出しているよりも、自分で選んだという感覚や、自分が選んだことにより周りが反応したという感覚が得られるのではないかと考えた。

③途中から、DropTalk のシンボルをクリックしたときに拡大表示されるようにした。このことにより、自分がこれを選んで、それで声が再生されているという因果関係が更につかみやすいのではないかと考えた。

### 【活動内容と対象児の変化】

#### ・対象生の事前の状況

朝の会や帰りの会の発表の場面では、クラスのスケジュールに貼ってあるカードを選んで取り、みんなに伝えていた。その際は、毎日同じ場所に貼ってあるカードを選ぶことが多かった。また、2つのものを提示して好きなものを選択する場面では、両方を指さすことが多かった。

#### ・活動の具体的内容


5月中旬～

教師が DropTalk HD の画面の iPad を提示し、一つ一つの写真をタッチし、音声を再生しながら写真の説明をし、どちらの活動が楽しかったかを尋ねた。



教師の説明を聞いている場面

6月中旬～

DropTalk HD の画面にして iPad を渡した。また、Apple TV  の AirPlay の機能を使って、テレビ画面に映し出し、クラスの教師や友達から対象児が見ている画面が分かるようにした。



テレビ画面に映し出しながら発表している場面

8月下旬～9月中旬

教育実習生が DropTalk のシンボルの登録を行い、朝の会や帰りの会での支援を行った。

10月上旬～

給食に白飯が出たときに御飯のお供（白飯に添加するもの）を本人の好きな卵ふりかけと味付けのりから選ぶ活動に取り組んだ。

12月上旬～

御飯のお供を選ぶ場面で、DropTalk を用いて選択する活動に取り組んだ。

・対象生の事後の変化

5月中旬～

教師が操作する iPad を見た。演示を見て、iPad をタッチして、音声を再生した。

6月中旬～

自分で iPad を操作し、2つのシンボルを順番にタッチしたり、続けて同じシンボルをタッチしたりして、タッチすると音が流れることを繰り返した。

7月中旬～

iPad を渡すと、画面をのぞき込み写真を見て注目した。一つ一つの写真に右側からタッチして音声を再生すると、再び右側の写真をタッチして音声を再生し、操作をやめた。

8月下旬～9月中旬

朝の会や帰りの会で、教育実習生が隣に座り支援しているときにも、同じように画面をのぞき込み写真を見て注目した。一つ一つの写真にタッチして音声を再生すると、再び写真をタッチして音声を再生し、操作をやめた。

12月上旬～

御飯のお供の選択を実物から iPad の DropTalk HD を用いての選択に変更した。実物での選択の時は、同時に二つ指さしていた。DropTalk HD では、一つずつ選択することになるため、最後にタッチした方を選んだと判断して、卵ふりかけや味付けのりを渡した。最後に選んだものを受け取ることで、選んだあとに御飯のお供を食べることができた。

2月下旬～

帰りの会で、今日頑張ったことや楽しかったことを発表する場面で、一つ一つの写真に右側からタッチして音声を再生した後、一つの写真を3回程度繰り返しタッチして音声を再生した。

**【報告者の気づきとエビデンス】**

・主観的気づき

活動をデジタルカメラで撮影することが多いので、iPad Camera Connection Kit で iPad に取り込み、DropTalk HD を用いることにより、毎日の活動に合わせてシンボルを簡単に用意することができた。自分の写っている写真がシンボルになることが多かったことにより、シンボルを注目することが多かった。Apple TV を用いたことにより、発表するときに友達と発表内容を共有することができた。御飯のお供の選択では、DropTalk HD を用いたときに1つを選んで伝えた。

・エビデンス（具体的数値など）

毎日の朝の会、帰りの会で繰り返し取り組んできたことにより、2つの写真の中から1つを選んで伝えるということは、理解されてきたようである。朝の会や帰りの会では、発表の順番が来たことを司会の友達が名前を呼んで知らせると、自分から iPad を手に取ることが80%程度あった。そのあと、自分で一つずつタッチして、最後にタッチしたときに、教師が、「〇〇だね」尋ねるとうなずくことは、90%程度あった。しかし、本人にとってはそれほど相手に伝えたいという場面ではなかったと考える。御飯のお供の場面は、これまでの DropTalk HD の利用経験を生かし、伝えたものを食べられるという経験から、1つを選んで伝えることにつながったと考える。

**【今後の見通し】**

御飯のお供の選択の場面のように伝えたいという思いのある場面での活用を進めていくことにより、自分の思いが伝わる道具として今後活用が進められると考える。また、選択の機会を設けることも大切にしていきたい。